新眞婦人

九月號

第六十五號

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正七年八月二十八日印刷納本
大正七年九月一日發行（毎月一回一日發行）

院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤

東京麴町三番町三十番地（市ヶ谷見附内）

電話番町（六一一番 五一六番）

東洋內科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

米國大統領ウヰルソン氏夫人

英國第一の女事業家マクウオス嬢

十四頁を見よ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(第六十五號)
九月號

本社の使命

▲肉體的には其の健康をすゝめ、精神的には其の自覺を促して、婦人の社會的活動をいよ〳〵盛んならしめたいといふのが、本誌の目的、本社の使命であります。

▲創刊以來既に六年、此の方針で一貫して來ましたが、言論だけでは滿足せず、曩に「健康顧問會」を設立せしが、今又女子修養塾を開始しました(健康顧問、及び女子修養塾の規約其他は別項にあり)

▲自分共の言論をダン〳〵具體化して行きたいといふのが、私共の常に熱望せる所でありますから、今後尚ほ續々本社の使命に從つて事業を起す考であります。

▲本社は主として、婦人の社會的活動を奬勵すと雖も、家庭生活を無視するものではありません。讀者諸君も知らるゝ通り、從來幾度、家庭生活の改善に就て論じたか知れません。今後も機會のある毎に、家庭生活の改善に就ての議論も掲載さるゝことでありませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰時に於ける米國婦人の活動

其の理解力と組織の力

西川文子

前號に於ては「戰時に於ける英國婦人の活動」に就て一文を草し、英國婦人に比し、日本婦人の及ばざる點を示したが、本號に於ては「戰時に於ける米國婦人の活動」に就て、聊か事實の要點を述べて、日本婦人の米國婦人に及ばざる點を示したいと思ふ。斯く思ふのは、云ふまでもなく、日本婦人の反省を促したいとの微意からである。

さて千九百十七年五月五日に米國の農務大臣は、

婦人は居ながらにして、國の爲めに盡すことが出來る。各家庭に於ける節約が此の際ドンナに國の爲めになるか知れない。

と云ふことを公言したが、其後間もなくウヰルソン大統領は同じ精神から、食糧長官にフーバー氏を任命した。フーバー氏の就任するや、彼は直ちに「戰爭の最後の勝利は、食糧品の有無によりて決す」と云ふことを高調し始め、食糧品の節約を計る手段として、「食物節約誓約書」なるものを案出し、各家庭の主婦にすゝめて之れに記名し、食物節約の實行を誓はしむることにした。彼の此の發案に對して、各婦人團體は異口同音に贊成の意を表し、意外に早く豫期以上の成績を擧ぐることが出來たと云ふ。

食物の節約奬勵と前後して、食糧品生産奬勵の一手段として空地の利用と云ふことが提唱された。所が米國の婦人は又直ちに之れを理解して、各自其の趣旨の實行に着手し、忽ち都市の空地總計百十萬エーカー(一エーカーは我が四反餘に當る)が耕作さるゝことゝなつたと云ふ。

次に米國政府が愛國公債を募集するや、其の應募者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の三分の一は、婦人であつたと云ふ。

其の他赤十字事業の爲めに、兵士慰藉の爲めに又兵士の墮落を防ぐ事業等の爲めに、米國の婦人は深甚の理解と、其の巧妙なる組織的能力とを以て、大仕掛けに働ける有樣は、たゞ〳〵驚嘆の外はありません。

私は日本婦人の愛國奉公の精神が、米國婦人の愛國奉公の精神に劣つて居るとは思はない。けれども政府若しくば識者の提案に接し、直ちに之れを理解するの理解力と、之れを組織的に大仕掛けに實行するの力とに於ては、日本婦人大に米國婦人に及ばずとしか、考ふることが出來ない。

今一つ、「戰後、新しき社會を組織するに際し开が或形に結晶せざるに先立ち、婦人の力が之れに加はらねばならない。ヨリ進んだる社會は婦人の理想と力とを充分に加味せずして組織さるゝものではない」と云ふ雄大な理想が、米國の婦人界に漲つて居るのを見て、私は日本婦人界にもコンナ雄大な理想が漲るに至るのは、果して何の日であるかと、嘆息せざるを得ない。

近時各種の講習會、講演會に、婦人の出席者の著しく增加して來たのは、日本の婦人にも知識欲が强くなつて來た一つの證據であつて、此の趨勢をすゝめて行けば、やがては日本婦人の理解力と、組織力と、理想とを、米國婦人の如くならしむることが出來るに相違ない。

で、私は此の趨勢の程よく伸張して行くことを祈ると共に、之れが進歩を助くる一手段として先覺婦人が進んで自から演壇に立つ、若しくばつとめて公會の席へ出て思ふことは憚らずに喋ると云ふ、勇氣を示して欲しいと希望せざるを得ぬ。

與謝野晶子

赤いろの高きそらより放たれし
　身のこゝちするよき端居かな

大ぞらのうす紫の灰うつる
　きくにいみじき夕かぜぞふく

秋の夜の灯かげに一人ものぬへば
　小さき虫のこゝちこそすれ

やうやくにおもひあたれる事ありや
　かくものなとふ秋の夕かぜ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

米價調節の話

法學博士　山脇玄

　交戰與國は何れも劈頭から英斷に出て居る。露西亞の如きは、九億六千萬萬圓の歳入を棒に振つて禁酒令を斷行した。英國の如きは帝室先づ戰時中酒を絕て人民に模範を示し、酒の販賣時間が以前は十七時間なりしを、午後零時より二時半迄と、午後六時より九時半迄と、合計五時間半に減却した。尙ほ食物の節約に就ては宿屋で客に出す皿數にまで制限を置いてると云ふことである。佛國の如きも、アブサン酒を嚴禁し、米國の如きも、其の四十八州中過半が禁酒するに至つて居るのみならず、或は無肉日を設け、或は無麥日を定めて食物の節約に努めて居る。

　敵國、獨墺の如きも、酒類販賣の時間を制限し、食物の節約に就ても、種々英斷に出て居るが、最近の電報によれば、獨逸の無肉日は既に一週四日と云ふまでになつて居ると云ふ。我國の如きも交戰國の一であれば、殊に今日國民の主食物たる米價が暴騰して、甚しく國民多數の生活を危殆ならしむるに至つて居るから當局は一日も早く英斷に出づべきであると思ふ。當局も其の心なきにあらざるべきも、まだ時期にあらずと思つて居るのかも知れない。併し吾々から見れば、既に英斷の時に達して居るのである。

　米を官營にするのもよからうし、米の最高價格を定めて了ふのもよろしい。米を以て酒を造ることを禁ずるのもよろしい。其の爲め八千萬圓の歳入を失ふも、其の入合せは奢侈品に高税を課する等の方法で何んとかならう。或は政府が在米を徵發して、公平に配布販賣させるのもよろしい。

　今一つ近時の物價騰貴は、通貨の膨脹を一因とする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものなれば、政府は宜しく速かに國債を募集して通貨の縮少を計るべきである。

併しながら之れは爲政者のすべき仕事であつて、之れのみで充分米價の調節が計られ得べきでない。どうしても、國民各自も、健康に害なき範圍で減食し、若しくば代用品を試食することにならねばならない。

ソレには玄米の一日二食がよいと思ふ。國民全體が玄米を食ふことになれば、搗減り丈けでも四百萬石を餘すことが出來る、白米病とも云ふべき脚氣病を無くすることも出來る。勞働者以外のものは二食に堪へられるし、二食にすれば三分の一米の節約が出來る。

然からずんば、混食によりて米の節約を計りたい。卽はち芋飯なり、ジャガ芋飯なり、豆飯、菜飯、粟飯などにして食べ、以つて米の節約を計りたいのである。

又一般日用品の公設市場を設けて、日用品を廉價に供給し、以て一般國民の家計の餘裕を計りたい。既に東京市は公設市場の調査を濟まして居ながら、何んの爲めに其の實行を怠つて居るのであるか、思ふに中間の商人の反抗を恐れてゞあらう。果して然りとせば、臺所をあづかれる婦人は、宜しく立て市當局にせまり速かに之れを實行せしむべきである。私は此の際上流婦人の中に。一般婦人の爲めに立て喧ましく云ふ人の出でんことを熱望して止まざるものである。

▲小豆　は昨年米の安い時でも小賣一升三十錢に騰りました、然るに昨今は普通品一升二十五錢上等品二十七錢一合三錢位の割合です、之を米に交ぜて三分の一小豆を入れた小豆飯を炊けば、一日二升(一圓)の米飯を喰べる家では日に十六七錢以上安く上がります、其れに小豆飯は鹽を入れて炊くと美味しいので副食物も澤山は入りません。

▲干饂飩　は小賣百匁十三錢です、大食の人でも五十匁で腹一杯になります、五人の家族ならば平均一人前三十匁位で充分でせう、然うしますと茄子や葱を入れた汁の費用を加へて一人前六錢五厘で上ります、卽一日一回干饂飩を用ゐると副食物が入りませんから 十五錢位の副食物の費用が浮いて來ます、饂飩粉も米より遙に安いと思ひます、小賣一貫目一圓前後です、スイトンにして喰べると汁の代を加へても一人六錢で算盤が取れます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私の歴史の一頁

中村照子

私は岡山縣上房郡高梁町の出身で、學校は岡山市にある高等順正女學校卒業の上、神戸女學院に學びました。神戸女學院では、度々基督教の説教も聞きましたが、基督教を信仰するまでには至りませんでした。

主人は病中、天理教を信仰するに至りましたが私は信仰するに至りませんでした。

私はドノ宗派の信者でもありませんが、例へば弘法大師の如き、光明皇后樣の如き、宗教的の人物は崇拜を致して居ります。

○

多忙で思ふ程には出來ませんが、讀書は至つて好きな方で、毎夜少なくとも一時間は讀書をして居ります。好きと申しましても、時間がありませんから、私の讀書は歴史や傳記ものに限られて居ます。就中前に申した光明皇后樣、弘法大師、菅原道實の事蹟を好んで讀んで居ります。

毎夜讀書を濟ませて後、十四五分間、自己流の靜坐をしてから、寢室には入ることに致して居ります。

○

現代の人物の中では、

石黒男爵、川村元帥、樺山大將、上原總長、大隈侯

などが、私の崇拜せる人物であります。

○

活動寫眞隊ですか、一行五人で、先づ大阪府下を廻はらせて居ます。此の間は、一行は河内で、汽車も電車も通せぬ大變不便な土地へ參りましたが、土地の人は大變に悅こんで禮狀など來て居ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農村の人々、特に其の婦人に、娯樂を與ふると共に無謀に都會へ飛出して來ぬ樣注意を與ふるのが、此の活動寫眞隊の目的であります。

「誠に結構な企であるから、私も寄附さしていたゞきたい」と申込まるゝ方もありますが、之れは元々私一個人で費用を負擔する氣で始めたことであるから、お斷りして居ます。而して此の企てに御賛成でしたら、別に同じものを拵へて頂きたいと希望して居ます。

○

貧民に、錢湯の切符を配布することですが、一昨年からして居ます。人に調べさしたり、配布さしたりもして居ますが、私自身で貧民窟を廻はつて配布も致して居ます。

○

ドンナ難儀なことがありましても、之れも私の歴史の一頁かと思ふと、ツラクも何んでもありません。何事を致すにも、自分の歴史を書いてるのだと思ふて、致して居ります。(談話筆記、文責記者に在り)

大阪行

七月十六日、夜行で大阪に下つた。「自働道話」の擴張と「新眞婦人」の爲めに關西知名の御婦人方を訪問して、編輯の材料を得るのが、其の目的であつたのです。而して此の目的を達する爲めには、少なくとも月末まで滯在するを必要としたのであるが、廿三日に至り突然東京より電報が來て、家内に病人が出來たから直ぐ歸へれと云ふことであつたので、止むなく歸京した。

先づ「自働道話」の爲めに盡力し、其の方の用事が略濟んだから、明日から更に「新眞婦人」の爲めに奔走しようと云ふ所で、急電に接した次第なので、「新眞婦人」の爲めの用事は殆んど出來なかつた。たゞ中村照子氏を訪問して、幸に面談の榮を得た丈けである。其折りに伺つたお話の要領は別項にある通です。

十月にもなれば、再び下阪して、阪神知名の御婦人及び女學校を歷訪したいと思ふて居る。

終りに、大阪でお目にかゝりし方々の御厚意を感謝して擱筆す。(西川光二郎)

▲大阪で異樣に感じたことの一は、所々の軒下に「出店お斷り」と書いた札の出て居ることであつた。之れは小さな車に商品を積み、若しくば風呂敷包でやつて來て、人の軒下で斷らずに商賣するものが多いからであると云ふ。コウ云ふことは東京には殆んどない。

▲「冷やしあめ一杯一錢」「むれすかし一杯一錢」、大阪には一杯一錢の飲み物があるが、東京にはない。大阪は富の都なれど、概していへば生活の程度は東京よりは低い。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

精神療法の話

西川光二郎

何にをするのもイヤになる病氣に罹りし場合には

どうかすると、新しく何事でも始めるのがイヤになり、甚しきは日常の普通行爲でさへも面倒臭くてイヤになつて來ることがある。

此の病氣も、他の多くの神經病と同じく、其活力以上の事をした場合に生ずるものである、されば生來心身の活力不足の人々は、自から其の力の極限を知りて、面倒な仕事や責任重き仕事は初めより避けるをよしとし、傍のものも其の人の力の程度を思うて、怠けて居るからとて、其人を責めざるをよしとす。怠惰だと云つて責むると、出來ぬことを無理にしようとして苦しみ、邪路に入つて行く恐れがある。

肺病、梅毒等の重いのにかゝりし人は、縱ひ全快してからにしても、其の活力不十分なれば再び都會生活にかへりて重き責任を負ふことが出來ず、無理にさうすると再發の恐れがある。

眞直に歩くことは普通人にとり、別に骨の折れることではないが、誰れか氣の張る人が見て居て眞直に歩いて御覽なさいと云はるゝと、歩くのがナカ〱骨が折れる。之れは自分で甘く歩かうと歩くことに注意仕過ぎる結果である。お茶をお客樣に出す場合、並のお客ならば別に骨が折れぬが、特に氣の張るお客だと骨が折れると云ふのも、同じ道理によりてである。それと同じ道理から、消化のことを氣にすると消化力がニブリ、睡眠が氣になると安眠が得られなくなる。されば其人の心身の活力に別に不足なく、其の人の仕事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に別に無理なく力相應の事をして居るのであつても、若し其の人がフトしたことから、それを氣にし過ぎると今まで何んでもなかつたことが、急に骨が折れ出し其の結果此の病氣になることもあれば、注意をせねばならない。

一の仕事にのみ精力を集注し、他には何んの興味をひくものもなき、趣味の範圍の狹き人も此の病氣にかかることがある。之れは或種の神經なり筋肉なりは過勞せしむるに反し、他は少しも使はぬ所から、心身に不平均を生せしむるからであらう。

同じ此の病氣にも、斯く種類があるのですから、個人個人に就き、精密に調べて後に、其の原因に應じて療法を定むべきである。卽ち生來心身の活力不充分なるものは、責任重き仕事はさけることにし、氣に仕過ぎるから病氣になつた人は其の點を矯正し、又趣味の範圍の狹ま過ぎる人は之れを廣くする工夫をすればよいのである。

幽靈を見た場合には

(1)或時或人が或學者を訪問した。其の時學者は書齋で何にか取調べ中であつたので、暫らく書齋に隣れる應接室で待たされた。待つて居る中に、書齋の戶が開かぬのに、一人の人が書齋から出て來て彼の前で消へた。此の時彼は滿腹して居たのである。

(2)この話は最近に某氏よりの手簡、二十年の前の事、佐賀縣有田町に伊勢屋と云ふ旅館がある。其處の主人に東京の知人から下男を一人世話して上京さしてくれと賴んで來たので、多年召使つてゐた男、名は忘れたが、——正直でよく働くので、それを上京さした、その男は『私はどうかして一度上京したいと思つて居りましたが、此の御恩は死んでも忘れません』と言つて、非常に善んで上京した。

四五年經つた秋の頃、突然其男が歸つて來て、『皆樣のお蔭で上京する事が出來て、此の御恩の程は忘れません』と繰返し〱禮を言つて、お茶も飲

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まずに歸つた。
其後暫らくして、其男を使つてゐた、東京の知人が來て、話の序に其男の死んだ事を語つた。
『それでは此間來たが、もう死んだのか、暇請ひに來た樣だね』
『此處へ來た、何時頃』
『十月だつたね』
『そんなことはない筈です、あれが死んだのも十月だよ、不思議だね』
それからよく考へて見ると、彼が死んだ日と伊勢屋に來た日と同日だつた。
これは伊勢屋の主人から直接聞いた話です。（妖怪實話）

（3）或時或人が途中で激しき風雨の襲來に出會し、或物置小舍の中で雨宿をして居た、其の時に空中から數年前に亡くなつた母の聲で、
『早く出なさい、危ぶない〳〵』と注意があつた。
驚いて出ると、彼の出ると前後して其の物置小舍は倒れた……

（4）これは私の友達の家で起つた事で、其友人から聞いた話である、此友人の家は秋田で荒物商を營んで居るが、家族が面白い人揃ひであるからして、日曜などには、能く兵士等が、大勢遊びに來て居つた、其中に一人家人に非常に氣に入りで、殆んど自分の家の人の樣に遠慮なく話したり、一緒に物を食うたりした兵士があつた、所が其の人が日露戰爭で出征する事になつた、戰地から繁々色々の便りがあつた。
或る夜の事――確か冬であつた――寒國ではあり、嚴重に戸締りをして、家内中寢入つた夜半の頃、表の潜戸が開く音がした、此の音に友人の母がフト目を覺して、今頃誰れであらうと思うて居ると、『アア寒い〳〵』と云ひながら重い靴で土間を歩く音がして、上り框へ腰をおろして、靴の紐を解く氣配であつた。其聲と云ひ、歩き附きと云ひ能く遊びに來た其兵士に違ひなかつたので、友人の母は起き上つ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て〇〇サンかネと聲を掛けた。スルト今迄の物音はパッタリ停つた、急いで店へ出て見たら誰も居ない戸締も前の樣になつて居る、十日程過ぎてから其の兵士の戰死を報じて來た。そして日を數へて見ると丁度友人の母の不思議な物音を聞た日であつた。

右に引用した話の中、一と二の如きは、卽ち幻覺を見た場合であつて、斯くの如きは其の瞬時其人が眠つて其の間に夢を見たものと解釋すべきである。或は一方に向て居た注意が突然他方に向ひし時に起る現象と解釋すべきである。

而して三と四とは、曾て聞いたことのある聲なり音なりの、記憶の再造として說明すべきものである。尤も視覺の間違なり、聽覺の間違なりが、たゞ單に心理上の產物でなくて、時には、何にかを間違て見、何にかを聽違て聞きし所より起ることもあるのである。

妖怪談の殆んど再ては以上の如く說明することの出來るものであるから、幽靈を見たから、怪音を聞いたからとて、何にも心配するには及ばぬのである。心配するから、食慾不進、睡眠不能、體重減退などの如き現象起りて、いよ〳〵恐怖の心を大ならしむるに至るも、心配せねばソレから何んの不祥事も起らないのである。

中には又「ソレはソウだが、一體視覺の錯感にしても、聽覺の錯感にしても、ソレがあると云ふことは氣の狂ふ始まりではなからうか」と云つて心配する人がある。成程氣違には五官の錯感は有り勝であるが、正氣の人にありても、之れのあることは珍らしくはないのである、たゞ人々は、氣違の親類筋と思はるゝことを恐れて自白せぬまでゞあつて、實は中年を過ぎた人で、一度も幻覺の經驗なきものは殆んどないのである。

曾て英國で正氣の人々に對し、五官の錯感に就て經驗あるものゝ告白を求めしに、八千二百七十二人の中に六百五十五人、八千六百二十八人の中に千〇二十九人、告白せしものありしと云ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

優生學の創說者として有名なるサア・フランシス・ガルトンは、其の回顧錄の中に於て、嘗て正氣の人の幻覺に就て研究せしことありと記してある。

されば、よし五官の錯感に就ての經驗がありても、「氣の狂ひかけ」ではないかなぞと、之を重大に考ふるには及ばぬのである。

過食の害

私共は既に度々、過食の害を說き、過食より起る生理的變化の要點を左の如くであると示した。

第一に過食は胃の筋肉を絕えず緊張せしめて置くから、胃の筋肉の力をダン〳〵弱からしめる。

第二に過食は胃液を濫費して、遂には胃液の缺乏を感ぜしむるに至る。

第三に過食は身體全體の筋肉及び神經を疲勞せしむる。

所が『食物の養生』八月號に掲載せる有田ドクトルの「健康の下落と飲食に就て」と云ふ文章の中には、更に一步を進めて、過食の害を示してあつた。よりて其の一部を左に引用する。

所謂不良少年なるものが、先づ大抵亂れた食慾に支配され、夫から追々年齢を增すに從ひまして愈々醜褻な猥褻な男女の關係を起し段々と種々なる惡事を敢てし犯罪を構成するものであります。近頃米國の或都市では不良青年の重罪犯に去勢を斷行したと云ふことであります。實に青年や壯年者を軍馬と同樣に其睪丸を拔き取ると云ふことは誠に殘酷の樣ではありますが、併し其當人而已ならず其周圍の不幸を未發に豫防すると云ふ意味ならば、或は止むを得ないかも知れません。私は一昨年夏檢事正某君の好意によりまして、或不良少年收容所を視察しました。時間其他の都合によりまして、其不良中の不良なる者計りに就て、健康診斷をいたして見ました所が、殆んど總てが慢性胃腸病患者でありましたが、之は唯に世の教育者のみならず一般父兄の注意すべきことであらうと思ひます。

吾々の實驗によれば精神病者は大抵胃擴張症を有するものであります。亦歐米に於きまして比較的成績の宜しき精神病院は、慢性消化器病を最も良く治癒せしむる設備を有する所であると云ふことも亦注意すべきことであります。

要するに私の五六人程に就ての實驗に徵するも食慾の奴隷となら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないで寧ろ食慾の上に立つと云ふことは、啻に胃腸病を醫すのみならず、精神上の疾病を治療する上に亦最も肝要な條件であります。

過食の害は斯くまで恐ろしきものなれば、過食の習慣をつけぬ樣注意することが、健康の爲めには何によりも大切である。ソレで過食せぬ爲めの注意要點を示して、此の文を終ることにする。

第一●は急いで食べぬことである。ゆつくり能く咀嚼して食べると、一つを食べるに今までより時間がかかり其の上に能く味うて食べることになるから、自然に食ひ過ぎをせなくなる。

第二●砂糖、胡椒、蕃椒、食鹽、酢、芥子其他、人の食慾を病的ならしむる調味物は一切之れを用ひぬこと。

第三●酒は食慾、色慾を亢進せしむるの恐が有るから之れは嚴禁するがよろしい。

第四●肉食すると多くの場合食過ぎをやる、菜食では過食の心配は殆んでないが肉食の場合はウッカリして居ると過食する。

家庭健康顧問會趣意書

私どもの專門にして居る家庭問題の研究中、私共は日本の家庭に如何何にも病人、虛弱者の多いのが氣につき、今更の如くに驚きました。而して又此の家庭に病人や虛弱者の多いことが、如何に家庭の圓滿を妨害して居るかといふことに考へ及びました。斯くして健康に關する智識の普及を計ることは、目今の急務であると感ずるに至り、此の事をも『新眞婦人』の一使命たらしめんとして今回家庭健康顧問會を發起しましたのです。されども微力なる私共の力のみにては、此の會の目的を達することが出來ませぬから、諸先輩の御贊助を仰ぎたいと思ひます。幸ひ諸先輩の贊助を得ば、獨り私共の悅のみではありませぬ。

會員は何時でも健康に關する質問を爲すことが出來ます。

本社は贊助員たる諸先生と御相談の上、御質問に答へます。而て會員の義務は本誌を購讀して下されば宜しいのです。

贊助員御芳名（承諾順）

醫學博士	石川貞吉
醫學博士	高田畊安
ドクトル	中島謙太郎
ドクトル	志村誠麿
至誠病院長	吉岡彌生
加命堂腦病院長	奈良林葵峰
青山腦病院長	齋藤紀一
織橋病院長	大石貞夫
女醫	風間種子
女醫	杉田鶴子
東京衛生園部長	山下松子
醫學士	加用信憲

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

酸素療法器

近頃酸素療法器オキシパサーが治療に効ありと云ふとが評判になつて來て、同器がダン〳〵廣く賣れ出して來たが、何ぜ此の簡單なる器械が諸病に効あるかと云ふに、

オキシパサーとは大氣中の酸素を利用し、オキシパサーなる治療器に依り治療の目的を達せんとする方法であつて、使用法に從ひ適當にオキシパサーを用ふる時は、人體固有の磁性を積極的卽ち陽性に變化させ、而して陰性なる酸素を誘導し病氣の源泉となつて居る人體の消極狀態を打破して、酸素の吸收力を高めるものである。斯くすれば血液は盛んに酸化されて活氣橫溢し忽ちに體內の老廢物や病毒菌等の有害物を驅逐すると同時に、細胞の同化作用を初め身體內部に於ける諸機官の能力を增進するものであつて、是等官能が甚だしく損じない限り必ず完全に健康を恢復すべきものであるからである。

價格は三十八圓で、少しは張るが、其の代り堅牢無比で永久に使用することが出來るし、家族一同代り〳〵使うて、それによりて健康を維持し、醫藥其他が入らぬことになるから、それ位の金額は一二年の中には取り返せる。ドコの御家庭でも一年間にお醫者さんに支拂ふ金額は少なくとも十四五圓から二十圓位はあらう。

且つ其の使用法は、更に簡便で、使用書を見れば直ぐに分る。何等の危險も絕對になく、此の器械をかけたまゝで、書きものも出來るし、縫物も出來る。

委細は廣告欄にも出て居るが、今月から本器を本社で取次ますから、御用の方は本社へ御申込下さい。割引其他種々御便宜を計ります、詳細は書信で御答へ致します。

時局の生んだ婦人

（口繪の說明）

英國第一の事業家　英國ウエルスの炭坑王で五十の會社の大株主であるロンダー卿の一人娘なるマクウオス孃は、戰前にありては例の婦人選擧運動者パンクハアスト夫人の仲間であつたが、開戰と共に心機一轉して、事業に志し事業に關する實地の研究に其の心身を鍛錬し來りて、今や二十八の大會社の支配人たるに至りて居る。今若し英國人に向て「誰れが御國に於ける最大の女事業家か」と問ふものあらば異口同音にマクウオス孃と答ふるに躊躇しないと云ふことである。

英國に今やコウ云ふ型の婦人が增へて居るが獨乙などに於ても、戰前には、女の大事業家とし云へばクルップ會社の社長ベルサ、クルップ位であつたが、今やコウ云ふ型の婦人が輩出して居ると云ふ。

此等時局の生んだ婦人は、戰後、戰前狀態に復歸するかと云ふに、ソウではなからうと思はるゝ其の理由としては

第一に、一旦廣い活動の天地を見た婦人は戰爭が濟んだからとて、ヨリ狹い非活動的な天地へ復歸することを承知せぬであらう。

第二に、戰死の爲めに起りし男子の不足は戰後も婦人が事業界より去ることを許さぬであらう。

第三に、男子も戰爭の教訓で變化し、戰前に商店の奉公人、會社の書記、事務員たりし人達は、戰後にありては、元の仕事に復歸するよりは、或は加奈太へ、或は濠洲へ出かけてモツト大きな荒い仕事を希望するに至り、商店或は會社に於ける位地は戰時中の如く婦人に委せらるゝであらう。

の三ヶ條を擧げることが出來る。

△**米國大統領ウキルソン夫人**　は朝から晩まで種々の婦人後援事業の爲めに盡し、午後八時からの一家團欒の時間中も、兵士に送るべき靴下手袋などの編物の手をはなさないと云ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水蒸氣と廣重

敏生

秋も深くなつて來ますと、宵の口過ぎた頃から、此の蕪雜な東京の市街も、乳色の夜霧にしつとりと包まれ、銀座あたりの街燈はぼうと濕んで、えも云はれぬ情趣をもつて來ます。

朝早く、雨戸を繰りますと、あたり一面霧の海で、二三間先きは、物の形さへ見えず、細かな霧がひやひやと顏をうち、霧の流れがよく見える事があります。

こんな時、ほんとに、我が國は水蒸氣の多い處だと感じます。

詩歌の本を繙く時、山水の畫を觀る際、そこにもここにも、水蒸氣の變化の情趣を詠じ、姿態を寫したものにあひます。

まづ一寸、俳句の歳事記の、水蒸氣の變化を捉へた題目を想うても、春雨、糸遊、霞、梅雨(五月雨)八仙の雨、虎が雨、夕立、夏霞、露、霧、霜、雪、みぞれつらゝ等まだ餘程あることでせう。

ですから、私達は、春と申しても、泰西の名畫や、讀物等にある様な、千紫萬紅の草花が、其處いらあたり一ぱいに咲き亂れ、空はコバルト色に高くカラット晴れ渡つた、陽氣な明るい様を想像することは出來ません。どうしても、紫の霞が四方の山に、靉靆とたなびいた、水蒸氣にしつとりと取圍まれた。快い眠氣を催してくるような様より想ひ出されないのです。

又、繪畫にしても、山水にはよく、山腹や麓は、雲烟をたなびかせて居ります。舊い、緣起物等の繪卷物にも、推移する事件と事件との間に、圖案化したる、金泥の霞、或は雲烟をひいて、あります。これは、單に胡麿化すための手段ばかりとは思へません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それから雪景は、よく描かれてあります。が、雪景の傑作は、近世より反つて、ずつと昔の、狩野派の生れない前の雲谷派等に見られます。

怒濤、激浪等の圖に、傑れた作品が殘つてあります應擧の遺作(屛風)に名高いのがあり、また、水流には有名な光琳の、圖案化してあつて、それで居て、よく水の動勢を表現したのがあります。

雨の圖は、彼の有名な、一立齋廣重の繪畫ほどよく之を表現したものは無からうと思ひます。廣重は、雨ばかりでなく、よく水蒸氣の變化する情趣姿態を、仔細に觀察して、之を詩化圖案化す、纎細な線と色彩の企劃とで巧妙に表現して居ります。廣重は一生に一萬枚位も描いたでせうが、構圖は千變萬化してあつて、その構圖上の天才も思ひやられます。

廣重の繪を見て居りますと、悠々として、人と自然とが融合してあつて、何とも云はれぬ、しみ／＼したいひ氣分になります。大抵の鬱憤などはすぐ忘れてしまふのです。

廣重ほど、此の水蒸氣の圖を描いて、日本的情調を表現した者はおそらく無いと思ひます。北齋も、矢張り、水蒸氣の變化した情調姿態は描きましたが、彼には自然と人との融合はなく人間と自然との爭鬪の意思が含まれてあつて、人が自然に向つて肉迫してをります。それは彼の、剛腹な意志の自然の強い性格から來て居るので、從つて廣重ほどの情調を見ることは出來ません。

廣重は唯一の、傑れたる鄕土的藝術家であります。

美術院の展覽會

九月となりますと、はや美術シーズンに入つて居ります。日本美術院は昨年の如く、十日から三十日迄、第五回展覽會を上野竹の臺陳列館に開きます。

美術院も今年は紛擾をかもして、遂々笹川臨風氏は追ひ出され、次いで、横山大觀氏と共に只今の美術院を再興した下村觀山氏も院を去ると噂されましたが、恐らく之は噂にとゞまることゝ思はれます。と云ふの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、去る七月美術院の小手調べとも云ふべき（實は美術院の經費を得るために開催した）院同人の展覧會を高島屋で開いた時も「獅子」と題する二曲屏風「裏金」を一双へ外に三四點出品してありましたし、現に、出品畫を揮毫して居られるさうだから。

扨て、私達が院展を觀て第一に感ずるのは、よく、片暈しを畫面の到る處に使用してある畫の多いことです。之は一種の情趣を表はすために、大觀氏が創めた描法ですが、今では模倣者が澤山に出來て、殆、習癖的に之を使用して居ります。之は恰度、在來の舊派日本畫家が、無意味に紛末を、繰返して描くことゝ同じことで、無意味なことゝ思ひます。只自分の流派（語弊があるが）が擴がるので、大觀氏が得意の微笑をもらすぐらゐのもので。在來の舊い日本畫に飽き足らずしてたつた、亦た個性を重んずる美術院として、反省すべきことであります。

扨て、今年の院展で何が見物かと云ひますと、大觀氏が如何に變つたかと云ふことです。一體、昨年の大觀氏は行き詰まつて居りました。それで巧慧なる氏は「雲去來」「秋」「達磨」の三趣三樣の作品を出し、何れが世の注目を惹くかと、探ぐつてみたかたちでした。大觀氏は之迄も二度許り行き詰り、行詰つては轉化飛躍をなし、大いに畫才を發揮して來られたのです。それで今年も轉化飛躍することゝは思ひます。然し、高島屋での同人展覧會の小手調べを觀ますと、矢張り昨年と同樣「雲去來」に似た「乍晴乍雨」「秋」と同じ描法の「鵲」等を出品してあり、而かも「乍晴乍雨」は昨年の「雲去來」より、畫面が疲れて居たから、或はどうかとも思はれる點もないでもありません。若し今年、不出來だつたら大觀氏も老いたり焉と見て間違ひは無いと思ひます。觀山氏武山氏は例の技巧一點でせうが、病魔と戰ひつゝある俊才、靫彦氏は如何に振ふか、又昨年、不評を取りし古徑氏は如何なる優作を以て之を恢復するかも見物であります。昨年好評の、速水御舟氏の新南畫は、危險分子を含んで居りましたが、今年は如何なる作品を發表するか、同じく昨年速水氏と共

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に一躍同人となつた川端龍子氏は如何なる優作を出品するか。龍子氏はもと洋畫出身の人だけあつて、日本畫畠から出た純粹の日本畫家より、或點は傑れて居りますけれど、日本畫の根柢が深くないのと、あまりに才氣走つて上つ調子で危なげがあるのが缺點であります。只何處まで、破綻なく才をやり繰つて行くかゞ見物です。

美術院の隣館には二科會が開かれる筈です。十月には文部省の美術展覽會が開かれ。十一月には白木屋樓上に、國畫創作協會の展覽會が開かれます。秋が深くなれば、美術界も多事になつてきます。

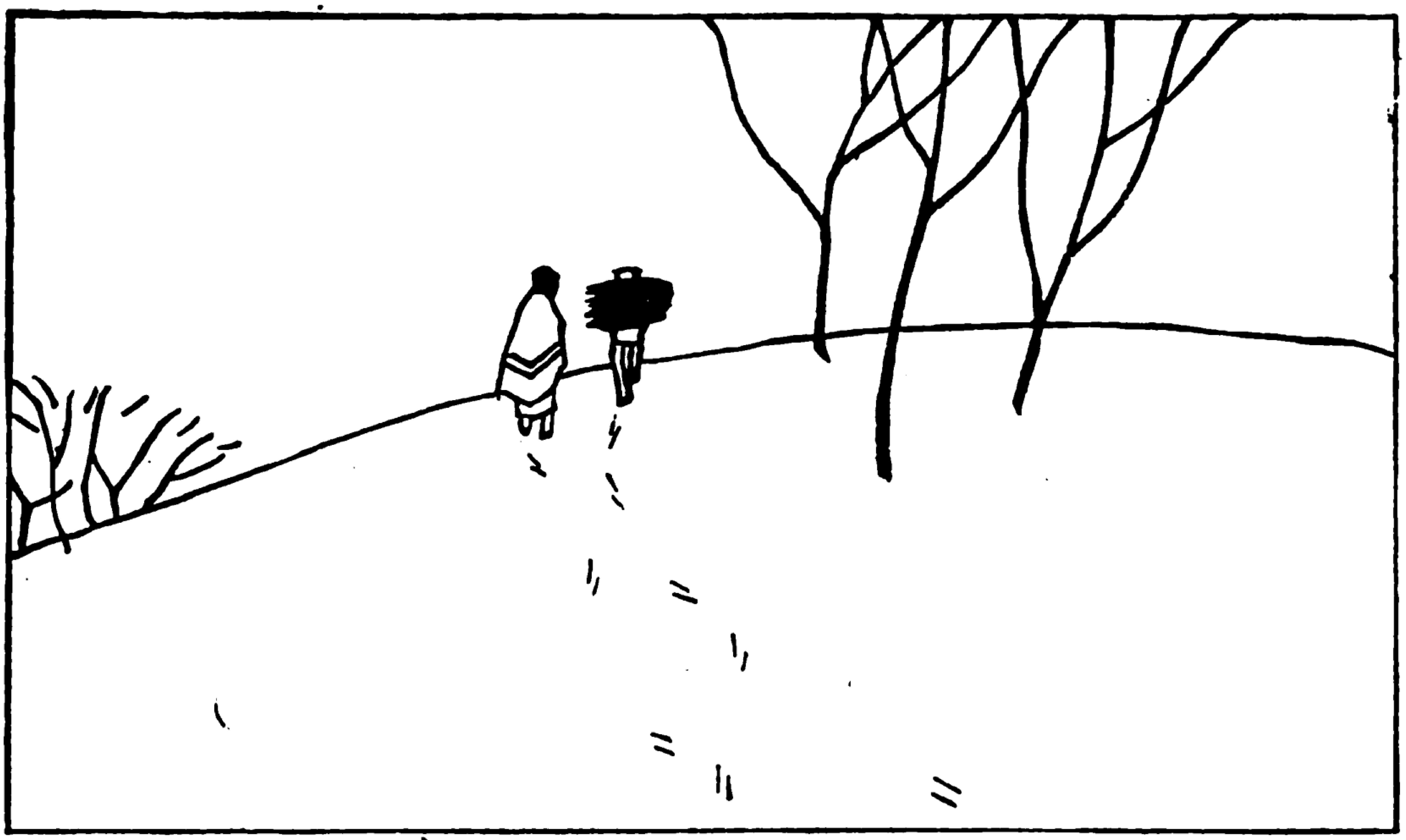
廉賣遊び

近頃東京の或る場末の町を通りますと、多くの子供たちが、開放されたる小學校の運動場で遊んで居りました。學校運動場の開放は恂に結構なことで、若し之れに各種の遊び道具でも備へ付けたらば、一層宜しからうと思ひました。藤棚の日除けはあるし、風がよく通つて凉しくはあるし、子供たちの顔にも活々とした色が見えて居りました。富める家の子も、貧しき家の子も打ち混つて、一つの樂園を造つてゐると思ひました。

ところが、何をして遊んでゐるのかと思つて、そろそろ近寄つて見ますと、流石に眉を顰めないではゐられませんでした。無心の子供たちは面白さうにして、お米の廉賣ごツこをしてゐるのではありませんか。近所から頼まれて來たお米屋の番りてになつた子は、桝に擬した小さな箱を持ち、區役所の吏員に扮した子供は正面に控へ、買ひ人になつた子供がぞろぞろと、一升或は二升と、反古紙や新聞紙で拵へた袋のやうなものを持つて來るのです。米は無論砂で、少し白い方が朝鮮米、黒い方が外國米と、器用に分けてありました『こんにちにかぎり二升から上はうりません』と、鉛筆で書いた紙札の貼つてあるのも可笑しく、『いつも三升まで賣るのに、今日は何故二升までゝすか』なぞと巧みにお内儀さんの聲色を使つてゐるのは滑稽でありました。

しかし、この光景を見て可笑しいとか、滑稽だとかばかり言つてゐられないと思ひました。子供たちにこんな悲慘な遊びをさせる世の中が痛ましいではありませんか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



雪女（下）

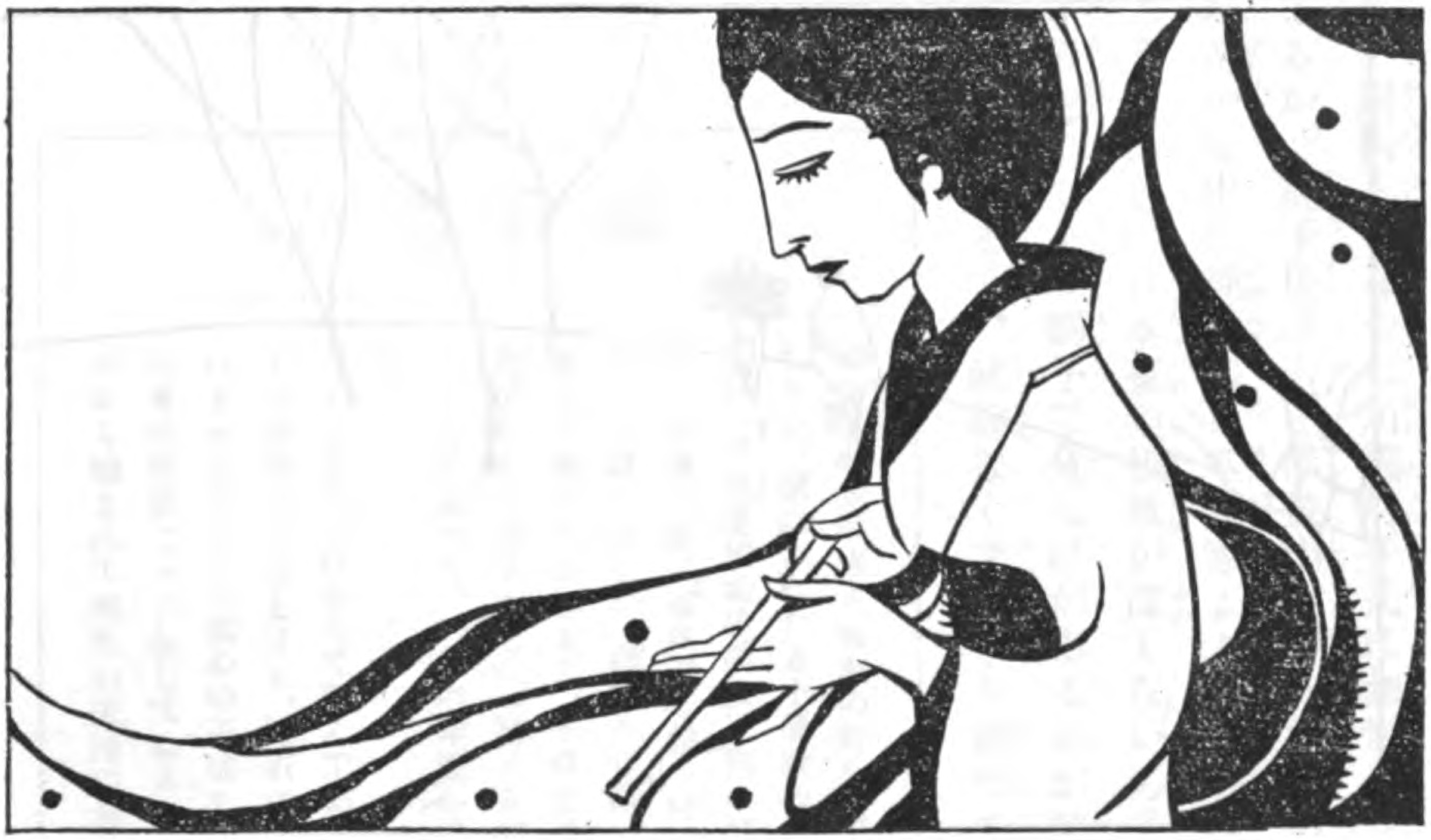
速川ゆくえ

翌年の冬となりました、巳の吉は身體も直つて此頃では毎日かゝさず山に參ります。ある晩。恰度去年の今頃であつたあの不思議な出來事を思ひ出しながら家路を急ぐ途中一人の旅をする若い女と路連れになりました。せいはすらりとして美しく聲は小鳥の囀りのやうに爽であります。二人は並むであるきながらぼつ／＼と話をはじめました。それは先づ氣候の寒暖から今眼に見る風光に及び更にお互の身の上ばなしに進むで行つたのであらうと推察されます。その結果この美人の名はお雪と云つて此頃貧しい中に二親に死に別れ、東の都に住む遠い親類を便つて行く途中である事が解りました。

お雪は何故か巳の吉の細君の事をしきりに氣にして居る樣子でありました。けれども巳の吉がやもめの母とまだ二人暮しで許嫁もなく情人もなく自由のからだと聞いて大變滿足さうに微笑しました。

巳の吉の家の前についた頃にはもう夜がとつぷりと暮れて居りました。巳の吉がお雪を家に招じ入れようとしたのは行き掛り上至當

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



の事であります。のみならず、巳の吉のお母さんも非常にお雪を歓待致しました。お雪は一寸羞恥を含むでためらひましたけれど遂々すゝめられるまゝに草鞋の紐を解く事になりました。

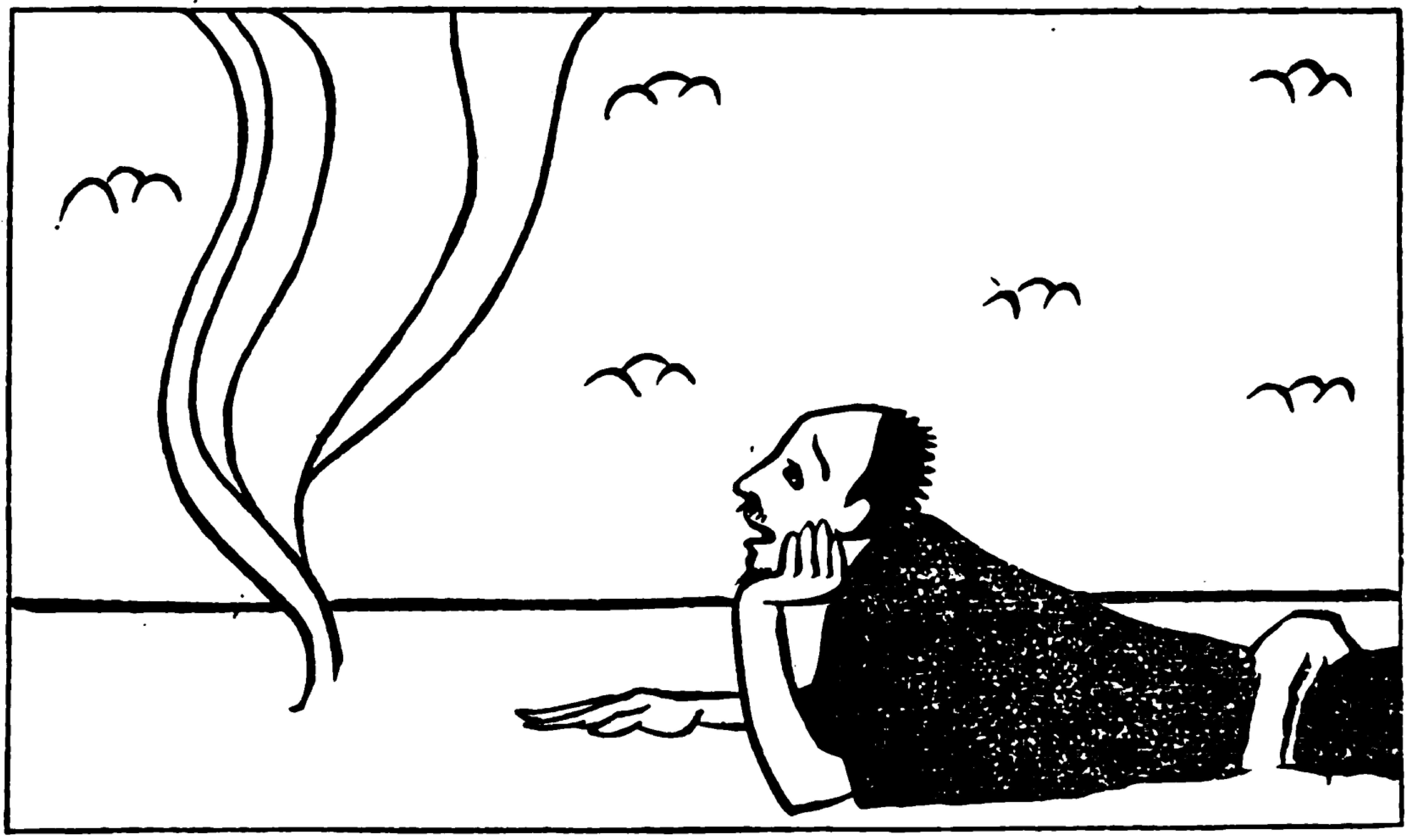
あくる日、巳の吉はいつもの通り山に行きました。けれどもお雪は都に向つて旅立ちをしませんでした。何故なれば母がしきりに彼れを止めたからであります。而してお雪に於ても強いて行かねばならぬ程の充分の根據がなかつたからでありませう。

日は一日と經つてすでに一月は二月と重なりました。お雪はもう都の事を口に出しませんでした。實際に於て彼れは巳の吉のいゝ許嫁でありお母さむのお氣に入りの養女になつてしまつたのであります。

かくて五年の後母は老病を以てこの世を去りました。いまはの際の遺言によつて巳の吉とお雪は芽出たく結婚致しました。波風なく十二年を暮して二人は十人の子供の親となりました。子供達はいづれも不思議に美しい皮膚をもつて居ります。それにもまして不思議なのはお雪の容色の更に衰へない事であります。萬年新造の噂は誰れ云ふとなく他所の村にまでひゞき傳へられました。

ある夜、それもやはり冬の事でありました。小供等が皆炬燵にも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ぐり込むで寝靜りましたのちお雪は行燈の明りでお裁縫をして居ります。巳の吉は今更にその美しい横顔に眺め入りました。而してゆくりなく十八年昔しの夜中の出來事を思ひ浮べました。

「お雪や、私はお前によく似た女を見た事があるよ。」

「お話しなさい。どこですか。いつですか」

お雪はせつせとお裁縫をして居ります。

「お前が私の家に來る前の年だつた。山の歸りに恐ろしい吹雪に出あつて私はもうすこしで渡守の番小屋の中に凍死をしようとしたのだよ。その時私は美しい女に息を吹きかけられた事を夢のように覺えて居る。一寸の間だけれど本當にこわかつた。あれが雪女と云ふものか知らむ。」

「それは妾よ、妾ですわ、其時妾はあなたに約束をしましたね。もしこの事を口外すればあなたの命を取ると、けれども今あなたは澤山の子供を育てゝ行く責任がおありだから命はしばらくあづけて置きます。今後あなたが子供の幸福にならぬ樣な事をなさつたらたゞは置きませんむよ。」

さう云つて居る中にもお雪の聲は風のようにかすかに聞き取り難くなつて行きます。姿は消えて屋根裏から煙出の方に白い煙のようなものがたゞよいました。而して二度と再びお雪は巳の吉のところにも子供のところにも歸つて參りませんでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

清澄山より

小村なつ子

――さん、やう／＼の念ひで私達は今日此山へ登つて來ました。房州馬車の五里半と一里廿餘町の上りとで當年五つの末の子など佛像の如に横たはつてをります。

私達の極めて單調な、物憂いほど變化に乏しい生活には、外で遊び疲れる子供らをまで平凡にして了ふ樣で御座います、私は思ひ切つて一月程前に此旅行のことを知らせて置きました、日頃彼らの行きたがつて居る動物園へすら、容易に應と言はぬ母親が十日餘りの旅を宣した時、一同は顏面の筋肉を緊張させて眼ばかり光らせて居りました。さて其土地は我縣の南端にあります、そして我縣の誇といふよりは、我が日本國の生んだ最も偉大な人物の生地であることを、暑苦るしい食事の室で語つて置いたのです。元より彼らはこの土地で生れた人々でしたから。

其時私にこの外房の濤音、色彩、などが多少語れたならば、もつと彼らの憧憬に力が添へられた事とも思はれました。私には瀬戸内海と内灣の靜的な波より知る所がありませんでしたとゝて私自身が驚嘆の聲を發した位で御座います、抑濤の巾は幾尺御座いましたでせう或は丈餘とも覺えます。青藍、紺、紫の水は、土用五郎の炎々たる太陽を眞面に受けて一層複雜な色を出してをります。西へ西へと逸走する馬車の窓から消えてゆく綠の岬を見かへると其處にはこの眞晝時に黄金の靄が厚くかゝつて居ります――さうです、海に突出した尖つた山が幸福な親子五人を乘せた乘物を目送して呉れてゐるのです。

――さん私は茫然して居りました。貧しいものは一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

片のパンの皮すら天恵として熱い涙なしでは食べません。私達にはこの幾年振かの旅をどうして平静な心持をもちつゞけられませう、崖の上の百合にも、岩と岩との間に咲き出でた桃色の撫子にも執着なしでは打過ぎる事はできません。多く旅をする人も少くする者も結局は同じ惠みを受けるものだと私は心に聽くのでした。茅屋に錠を下して恁うして一つ車に搖られつゝゆく、何處へ、何處へでもよい、會ふ人も待つ人もないこの一團は、たゞ一團であればよいのです。未熟な果實は親木にしつかり着いてゐればよいのです、とは言へ旅に出て自分の孤影の餘りにみすぼらしいのに驚かされました。

「廻り燈籠の繪のやうに：：」突然一人が唱ひ出しました。男の兒は白樂天の太行路を歌ふのでしたが、時と場合がこんなのであつた故か私は思はず顏をそむけました。斯くて久しく憬れてゐたお仙ころがしの嶮も上の二人の子供が下りたのみで、氣味の惡い思ひはしましたもの丶其儘乘つて參りました。妙の浦で一寸誕生寺を拜し、そこからまた一里半例の音樂會をつゞけて五時半頃に麓の海岸につきました。日蓮聖人がまだ三十四五の頃、建長年間と覺えます、時の權勢鎌倉の五山八宗を先頭に六十餘州の矢面に立たれた時、第一の味方——大檀那であつたのがこの天津の領主工藤左近吾吉隆であつたといふことです（村上信氏の日蓮による）其天津の町の中程を右へ折れて四五町ゆくと——勿論其處は山と山との峽である川の流域であります二つばかりの橋を渡ると緩やかなスロープになつて、私達は何時のまにか其川を俯觀して居るのでした。

——さん、山路は割合に樂で男兒らは猿股一つになつて二三町の先へ小さい體を隱見させてゐるのでした川筋の如な延々とした小路を徒歩してゐる時など、前進した人と後れたものとの差の明瞭になる時はありません。女の兒の友禪の袖などが密稠した杉並木の蔭から現出するのも、美しく感ぜられます。着丈二尺のNが裸體に水筒を掛けた兒ちやんにくつついて、ぐん／＼登つてゆくのも涙の滾れる樣な情景です。ですからた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とひ今夜の宿が什麼であらうとも、すでに熟睡の恩寵をえて居る譯なのですのに、この旅なれぬ一團に對して八疊三間打通した涼しい部屋が待つて居て呉れて居たのです。何處までも幸ひな善い旅の一日をわたしは寝るに惜しく終に月に浴してよろこびの夜を明したのでございます。

――さん夜の山容ほど眞面目なものが他に有りえませうか。暮靄の爲に一時寂寥な場面を描いた山々谿々まで、晝とは異つた繪具で塗られ、一葉の落ちる音すら無い眞夜中は眞に森閑としたものでございます。恰度其宵は古い暦の月半でありました、まん圓い珠玉の如な月影は右方の山の端を離れると、先刻霧の海であつた谿谷、丸い山いびつな山、樹木の欝蒼した山々に映じて何とも言へぬさみしい心を語つてゐます。其反射をうけた私の胸もまた異樣に冷えわたるのでした。

家を提げて來たこの旅に、何の悲哀がつゝまれてありませう、頭ではようく解つて居るのですのに、胸はちく／＼刺される樣な疼きを覺えるのでした。

――さん私の肉體は非常に衰へてゐると見えます、どうしてこの四人の人の楯となりえませう、一千二百餘尺の頂上に近いこの旅宿に子供らはやす／＼と蚊帳もいらぬ快いうまゐをえて、玻璃窓からさし入る月光を吸ひ乍ら御行儀よく明日の希望を額に輝しつゝ、この母親に力を與へて呉れて居ます。

「何者にも縋るまい」とはいつも思つて居る願ひながら、山に來ては輭弱いこの脚を歎せずには居られません、これから先の自分の生涯を一體如何するのかと此夜も考へるのでしたが、偉大な山々は多分永遠に應へては呉れないでせう、たゞ山のない國に生れた私の子供達はあまりに平野的すぎる樣に見受られ、而してこの憶病者らは一方に物に畏怖することを知りません。山によつて事象の深さを發見させたい――とは彼らは幼稚すぎますけれども、切てはこのひからびた骸に生命の所縁ともなる情緒の霑をえたく思ふのでした。

――さん今は蜩も羽を休めてをります。晝間でも時には時鳥が過ぎると宿の人にきゝましたが、或は今宵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あたり枕につけば聽くのではないかとも思ふのでした。

――さん私達が蹂躪されたといふ心の傷は、時として却て痛快な感覺をうるものではないでせうか、例へば子供が寢たならば、放つてやらうと思意つてゐた蜻蛉や蟬を、翌日まで忘れてゐた時の悔いに思ひ比べたならば……撲たれたり蹴れたりした記憶の方がどれほど快いものでせう。而も其恥しさや痛さやを自分の胸底に祕めておけばおいたほど、自分自身がなつかしくかつ深みを帶びるやうに覺えはしないでせうか。

私は夜すがら悶えて寢られぬのではありません、自分よりももつとひどいと思はれる人のあつた場合に施すべき何物も有たず、そつと帶を結び直して一枚の肌着をえ、――それには垢などついてもゐます――苦痛を忍んでそれを彼女の前にさし出した時、其麼事をした晩など顏が熱火つて容易く寢むられるものではありません、人を辱かしめたといふとがめも入り交つて……

（七月末日稿）

陽氣であれ

國名が日の本で、國旗が日の丸、而して昔から旭を拜する習慣がある。されば日本人たるものは、陽氣な人であらねばならぬ。

イヤ神道に「天つ晴れ、あな面白、あな手伸しあな明け」と云ふ樣な言葉の多きを見ても分る通り、又神樣を拍手して拜むのも、ア、樂しひ、ア、嬉しい、アア面白いと云ふ心持でしたもので、例へば伊勢參りでも陰氣に參る人はない、ヤートセイ、ヨーイヤナ、ハルハイセ、クレハイセ、スリヤヨーイヤーナー世彌長と國家を祝福したものであります。

過去の日本人の然りしが如く、今日の吾々も然らねばなりませぬ。

赤十字印
安心コロダイン
何人も必要なる常備救急藥各地藥店にあり價廿錢卅錢五十錢
効能いつうふく痛食あたりはき下し氣付毒けし惡心消化不良

事實
小說

女中問題（一）

西川文子

澄子が林町から動坂へ移つてからもう四年程になる。これ迄平家に住んでゐたこゝの小供達は二階のおうちと云つて大變目新らしいのを喜んで、こゝに來るのを望んでゐた。其の實以前のより却つて見劣りするのだけれど、林町は立て込んだ平地で變化のない所だが、動坂は上は高く下は低いので、二階の眺めは一寸變つてゐる。空も天地もよく眺められる所が少しは自然に富んでゐるので大人も喜んでゐた。澄子夫婦は都會の生活、わけても借家住居の自分等にとつての贅澤の一つは移轉であるとよく云つてゐた。つまらぬ家でもそれが自己の所有であつたならば、それに結ばられてなか／＼轉宅などは出來ない。その邊の空氣に嫌いたからとて一寸移轉すれば朝夕の散歩にも目先きが變る、新らしい住心地もよくなる、こんな贅澤は又とあるまいと云つて身の輕いのを結局喜んでゐた。

友人の中には隣家の人が氣に入らない、家主がどうだ、小供の爲めに周圍が惡いのと理窟はあるにしても長くて半年一年、短くて二三ヶ月で移轉する人がある移轉した先へ第三者が行つてみると、何時も奥まつた同じ樣な路次口の惡いは入り込んだ、日光のあたり相もない家なのだから驚く、どうしても同じ人の趣味は變らぬものですねと澄子はよく云つてゐた。その人達に比べては澄子等はまだ／＼長く居付く方で、二三年はどうしてもゐるが三年もたつと、あいて來る爲めか眺めが惡い、風通しが、日光が、と何かしら轉宅を要する理由が湧いて來る。三度轉宅すると身代を失くすと云ひ傳へる田舍の人に聞かせたなら氣の變るのに驚く事だらうが、必ずこれ迄は三年目位には家について

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の低氣壓がやつて來た。處が不思議に狹くて見得のよくない、この住居は住むのに便利なので今度こそ新築でもされる樣になる迄は變るまい。小供はだん／＼ふえて來る、學校へ遠くなつても困る、お荷物もまして來る、どうやらいやでも應でも根を下ろさずにはゐられないやうだと云つてゐた。處が今度ある事業を止むを得ず雜誌の副業としてしなければならぬについて、今少し廣い家を要する事になつて來た。暇さへあれば方々あちこちとさがし出した、景氣のいゝ爲めか、材料が高くて建築を見合はしてゐる爲めか借家と云つては殆んどない、これ迄お金さへ出せば何でも思ふまゝだと思つてゐたのが少しも見當らない、たま／＼あつても今のよりずつと狹くて、家賃ばかりは倍もする、決して變り榮がしない。以前は疊一枚五十錢見當であつたのが今では大抵一圓見當よりもつと高い位だ、高い安いは別として殆んど皆無だ。澄子はこんな事では非常な市區改正にでも逢うて大發展して新築されるか如何程高くても構はず借るか買へる樣でなくてはもう誰れも動けなくなつて了つた。して見ると茲二三年前に定めておいた資格と云ふものが小發展、小不振は委細構はず現狀維持をするより仕方がない狀態になつて了つた實に嘆かはしい次第だと思つた。それには澄子等はあまりに無頓着で、いつでも好き自由に大きくも小くもなれるものと云ふ輕く安つぽく見る例の僻で、假りにも茲を永住などと云ふ考へを持つた事はなかつた。女中をいくら優待しても或事情の爲めにゐなくなると、家が堂々としてゐないからだとそれにかこつける、又ゐない時にはこの家ならばこそまさかちがつて女中がゐなくても住んで行かれるのだ。家の中に水道もある、干場もすぐ前にある、下は空屋同然にしておいて二階住居をしてゐてもゐられる、住むには至極便利な家だと云ふ事になる。住心地よく便利に住居さへしられゝば家は雨露を凌げば足ると云つてもゐられやうが、何と云つてもなくてならぬ女中問題に澄子はいつも腦まされる。

女中の心理と云ふものは強がち樂がしたいと云ふの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ではない、月給が多く欲しいと云ふのでもない、大きい家ならばお掃除にも骨が折れる、仕事も多いけれども、一寸見た目にい丶、何となく自己の虚榮心が滿足する體裁がい丶と云ふものだ。

家でも自分にさがして見てなくて困らなければ如何に家がないと聞かされても本當に同感されない、それと同樣女中でも三年四年は同じ人が都合よくゐれば別に問題はない。世間で如何程女中拂底の聲が高からうともお構ない、高所の見物である。どうも女中の待遇法を知らない、あの家はひどいからと云つてゐられるけれどもそれは强がちさうとばかりも云はれない、四五年も都合がよく出ゐらない家だつて都合惡くそれに出られたら半年位には又しても問題になるかも知れない。四五年でも無事に過ぎて了へば短かい、實に短日月であるが、可成長くゐると思つてもそれが半年目位に變るとしたら、既に八人も十人もの人が出てゐるのだから隨分長い丶樣な氣もするし、大勢を支配した樣にも見える事だらう。（未完）

めくら猫

アラ「たまが、鼠を銜へて。

ヱヽ「猫が鼠を捕つて來たつて、生きてるの。

マア「此の猫が、何うして鼠を捕つたのだらう。

猫が鼠を捕るに何んの不思議もないのに一家が斯く驚いたのは、此の猫は生來の盲であつたからである。猫の生活に必要とあれば、盲猫にさへ捕鼠の能力が與へられてある。

一か八か（上）

山本勇夫

『今次は何日來る？』
『さうね、明日、明後日、その次の日位に……』
『明日は晩ぢやなくつちや歸らないし、兎に角それぢやあ、結果は直ぐ手紙か何かで報せるから。』
『いゝわ、さうして下さらないでも……さう思つてると却つて氣が氣ぢやありませんから。』
『むゥそれぢやあ吉左右は今度來た時に話すとするか……それ迄には何とか分るだらうからね。』
『それとも急ぎな用があれば何時でも來ますけれど……』
『別にありさうもないがね。』
一郎夫婦は、かうした話をし乍ら、電車の停留所迄歩いて來た。冬の短い陽は落ちて、暮れかゝる街に淡い電燈の灯が照らし初めてゐた。一郎は別居してゐる妻のしづが訪ねて來ると、きつと此處迄送つて來るのであつた。
『ぢやあ、明後々日にね。』分れて電車の方に行きかけたしづは、戻つて來て今度來る日の念を押した。
『むゥ』一郎はうなづいた。
『風邪を引かないようにね。』しづはかう言つて、また電車に駈寄つた。
『あなた、むまくおやんなさい！』
車掌臺に昇つたしづは、振向きざまにかう勵ますような語勢で言つた。
『まあ、その積りで樂んでゐるさ。』一郎は、しづを下から見上げ乍ら、微笑を含んでから景氣よく言つたけれど、その言葉を自ら頼りなくも思はれた。しづは目禮して車内に姿をかくした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男女の應答に怪しげな一瞥を放つた電車の監督は呼子を吹いた。電車はゆるやかに軌道を滑つて發車した一郎は此方を向いてゐるしづの横顔を硝子越しに認めて、じつと見送つたまゝ佇んでゐた。後から來た電車が彼の前で停つた。夕刊賣の女が、寒さうに鈴を鳴らしてゐた。彼はまだ其處を去らず茫然としてゐた。むまくおやんなさい！——と、しづがさう言つた期待に對しての掛念と、心配が彼の心に一種の哀愁をたゝへさせてゐた。

その足で、直ぐと客引の富倉を訪ねて、一郎が△△寺に歸つたのは、夜の八時過ぎであつた。彼は親達ちが居る自分の家の近傍の寺院の一室を借りて、三度の飯丈け食べ通ひをして、あとは其處で讀書をしたり書きものをして、勝手に寝泊りしてゐるのであつた。

一郎はがらんとした自分の室に這入ると、さつき埋めて置いた火鉢の火を掻きたてゝ、炭をつぐと直ぐ書棚の一隅に目を遣つた。先輩のS—氏に貰つた、トルストイの飜譯書を求めた彼は、あぐらをかいたまゝ手を延ばして、それを執つて傍の机の上で展いた。海老茶色の表紙の裏から、折目のつかない札が幾枚も現はれ出た。彼はそれを手にも執らず、じつと見詰めてゐた。先程迄、五圓の金にも、一圓の金にも困つてゐた自分に、その紙幣の尊さが感じられないで、たゞ鮮明に印刷されたはつきりした紙片といふ感じしかそれから得られない自分の心を、彼は不思議さうに見詰めてゐた。

が、二十枚だから、二百圓だ。

彼は強いて自分の心に、その價値を認めようと思念して見た。しかるに、矢張さう有難くも思へない自分の心持をもつたいなく思つた彼は、机の引出しから出した皮の紙入の中にそれを容れた。紙入は具合よく、ぱつゝりとふくらんだ。初めてその味合から嬉しさを感じた彼は、そこにあつた小形の祝儀袋も紙入の中に納めた。祝儀袋の中には、五厘銅貨が二つ這入つてゐるのであつた。

「これはね、去年のお酉樣に行つて拾つて來たお賽錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なのよ‥‥本當は一つ拾つたんですが、他のとごつやになつて了つて何つちか分明らなくなつて了ひましたから、二つ容れといたんですが、一つはたしかにさうなんですから‥‥』さつきしづが金を出した時に、自分の迷信を笑はれやしないかと、自らも笑ひ乍らおづおづして帶の間からそれを出したことを彼は思ひ浮かべた。一郎はその時、金錢の勝負に望む時持つて行きさへすればきつと勝つといふ、穢多の團左右衛門が持つてゐた、朱が塗つてある古金を持つて行つても、屢々損をした嘗ての經驗を話さうとしたが、默つて喜ばしさうに受取り乍ら、

『あゝ言ふ仲間にゐたこともあるもんだから、矢張僕もゑんぎをかつぐ僻がついてゐてね。』と、彼女の好意を笑顔で受け納めたのであつた。

彼はさうしたことを思ふと、しづのあらゆる好意がそれから透して視られるやうな氣がして、祝儀袋をまた紙入の中から執り出した。赤や青の、毒々しい色彩で印刷されてゐる、松竹梅の模樣をじつと眺めてゐたが、また大切さうにそれを入れて、紙入を書棚の本の間に挾み込んだ。黒い紙入の背が、快い丸味を持つて見えてゐた。——

暫く、當もなく茫然考へてゐた彼は、思ひ出したやうに安火の火を容れ足してから、豫ねてからとつて置いた、十日程前からの新聞紙を床間の隅から運んで來た。安火の蒲團にすつぽり膝を容れて足を投げ出した。彼は、さつき歸りがけに自宅から持つて來た、一と月許り前からの新聞紙を合せて、安火の掛け蒲團の上一つぱいに新聞を散亂し乍ら、たんねんに日順を揃へはじめた。漸く一ヶ月以降の米價の高低表が彼の手によつて作り上げられた。ずつと、上つたり下つたりしてはゐるが、相場は漸次低落してゐて、去年の暮れからすると、一圓以上も安くなつてゐることを、その高低表の有樣が明瞭と語つてゐた。自分の思惑通り、之れから先きの米價が必ず低落の一方であるかを、確然と計り知ることは出來ないにしても、彼は多少の期待を得ることを自分の心に覺えた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

何にしろ、勝負は明日のことだ。

彼はさう思つて、急いで寢床に潜り込んだ。けれど、彼は直ぐと眠れなかつた。自分が可成興奮してゐることを感じた。種々の自分の過去や將來が、頭腦の中で駈け廻つてゐた。一方が寺院の廣い本堂に隣し、三方が墓地と庭で廻らしてゐる、彼の二階の室は、夜が更けるに隨つて、森としてゐた。厭にたゞつ廣く、殊更に四圍の襖や壁がすぼけて見えた。寂しさと寒さが、彼の襟元に迫つてゐた。物音一つきこえない部屋一ぱいに、タングステンの燈光がしら白らと照らしてゐた。風呂屋で、流しを洗ふ竹の音を耳にし乍ら、彼は、どんよりした朱の石摺の軸をじつと見詰め乍ら、まだ何か考へてゐた。

女子修養塾 青葉の舎設立趣意書

地方の御婦人中、色々の御事情から、上京して職を求めればならぬ方で、新眞婦人社に依賴して來られる方が次第に增えて參りました。又一方東京に於ける知合の方から『人がないか』と云つて尋ねられる事も次第に多くなつて來ました。之れまでとても出來る丈け御世話をして參りましたが、僅に手紙で知れる丈けの人を御世話するのですから、心苦しい場合と御小言を頂く場合も御座いました。一方職を求めらるゝ方には何んとかして御世話してあげたいと思ひながら、便利な組織のない爲めに、ほんの暫らくの月日の事で適當の職業を見失はねばならぬ樣な事が御座います。手紙で地方に紹介してゐる中に。でどうかして、寄宿舍樣のものを設け、地方の御婦人で上京したいと云ふ方は兎も角御引受して一先づ之に收容し、御本人を見た上で、それ〴〵適當と思ふ所へ御世話し且つ職業婦人にならうと云ふ方々に、必要な心得を御話し職業婦人の出會ふ道德上の危險も保護いたす事に致したいものと祈つてゐました。所が愈々其の時が參りました。どうしても、致したいと云ふ決心がつきましたから、皆樣に御願して其の設備をするについての資金と維持費の中に應分の御寄附をして頂きたいと存じます。

青葉の舎規約

一、職を求むる婦人、學資の足らぬ婦人、求職者其の他の相談に應じ、職業の周旋を爲すと共に、場合によりては一時本舍に收容保護するを以て目的とす。

二、本舍が御世話せし人々を會員とし、會員は其の目的を達せし後、本舍へ任意の感謝金を寄附すべき義務あるものとします。

三、本舍の經費は、會員の感謝金と、名譽贊助員の寄附金を以て支辨します。

四、本舍の報告は、凡て新眞婦人誌上で發表します。

青葉の舎贊助員氏名

新渡戸稻造氏、高島平三郎氏、與謝野晶子氏、吉岡彌生氏、戸野みちえ氏、宮武はる氏、東大寺太代氏、小林夏子氏、中村久六氏、中島鎌太郎氏、横山幸次郎氏、古谷精一氏、石川貞吉氏、高島米峰氏、伊藤きん氏、鈴木精二氏、武居俵十郎氏、逸見斧吉氏、伊藤きん氏、遠藤はつ氏、井出茂代氏、澁澤榮一氏(次第不同)

贊助金受領報告

一 金拾圓 澁澤榮一氏

一 金五圓 井出茂代氏

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

H様より

時節柄暑さきびしく誠に堪へがとう御座ますが御社様には益々御隆盛の由何よりも芽出度う存じます次に私事はじめて御目にかゝります不調法もので有りますが以後御見知り置き下さらば誠に有難き仕合せと存じます昨今御社の發行の本を拜讀して居りまして色々と有益な御教訓を受け厚く御禮申上ます、扨て此度突然に御尋れ致しますのも失禮とは存じましたが御筆に甘へまして御伺ひ致します故何卒御教導くだされる様願ひます、私は只今は表記の處に三年前に嫁ぎ參りてすみ居まして本年の六月迄は寫眞を業として家事のかたわら手傳ひをして過して居りましたが今は廢業してをります、私の 生ひ立ちは 至つて 御恥しい事ばかりですが一應御聞き取り下さいませ、家は伊豫西條で中流に生れましたが生れて間もなく實母にすてられて義理ある家で尋常、高等女學校をも終へ其の幾年の間或は人知れぬ、いきさつの爲め亦は心淋しさのために兩の袂をぬらした事は數知らずで、愈々結婚と云ふ問題が起つて義祖母の次男に嫁ぐ事になりました、然し私は過分かは存じませんが、不足で種々事わりを申ましたが西條名物男とも云ふ頑父のグヮン固なために聞き入れられず、又其の男が繼母の子と云ふ頭がありますので繼母も義理のために陰にて心配致すのみ、頼るは實の父獨りですが、其父もこんな入組だ家に育つて居るので一言葉も公然と口走る事も出來ぬ破目におち入り遂に意をそむけて犠牲の覺悟で當地へ參りましたが丁度十八歳の暮の廿九日でいまは廿一歳、三年の間と云ふものは常に面白からず如何かして双方の心を解ける様にしたいと苦心も致しましたが思ふのも水の泡となり、主人は至つて遊好き増して客や家を後に毎日夜晩く迄南地其他の酒にしたり年百年中留守勝な家で四五人の自分よりも年上の技師を使用して會計全部をやり繰りしてをりました、然し元より好まざる家とて不服がましくなりますのを一日一善のやうに筆記したり或は讀書を慰みとして漸く過してをりましたが二度程歸國の志をたて獨立自營をして家や親類に迷惑をかけずに不孝の罪を詫びやうと思ひましたが義祖母及繼母の切なる手紙のために我身のために表むきでも何事もない家を破り或は氣の毒に私とおなじ板ばさみになつて居る父に此上心配をかける事を思うてどうしても今の家を離れて己れのみが安らかに生活する事が出來難い事を推察して泣きの涙で義に生きてなりましたが此頃は一層烈しく如何に心を勵ましても故郷の家を思ひましても此上辛棒する事は出來ぬと深く〳〵考へました今の様になりましたも初めの時に私の意志が義と云ふ感情に走つて嫌なと云ふ心に打ち勝つ事が出來ない薄弱なために今は其のむくいで引くに引かれぬ破目になつた事を怨めしく面目なく後悔してなります考へて見れば私の一生は長い事故少しの問壓されて一緒に暮す事ができても身を終へる迄はとうてい駄目な事で早かれ後かれ斯うした時が來て 己が身及び親や 家にも 幾度となく苦勞を 與へるであらうと 知ります 故惡い事ではあり ますが、 一層この 際身を引いて相互に解決をつければ兩方の幸と思ひましたので毎日〳〵考へて居りますが、愚な者とて煩悶苦勞をするのみで確とした考へも出ず唯々感情に支配されるので困つて居ります、其のために義理を離れた御社の冷靜な御指導を承りたいと存じて家の恥及自身の愚知をも憚からずむき出して申上る次第惡からず御思召下されませ、御社も種々雜多の御用で御多忙と存じ自業自得の事を申上るも恥しき事とて恐れ入りますがせめて御暇の時も有りましたら一言葉を御認めて御送り下さらば身の振

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り方も許りたいと勝手を申上た事幾重にも御免下さいまし。

かう云ふ問題は他人からかうなさいとは申し上られませんが、二つより他に道がないと思ひます、古い人の云はれる通りですが一層死んだ氣になつて辛棒を押通しなされば、その中には自然良人の品行の更たまる時もあるかもしれません、でなくとも貴女御一人の力でよりよくなる時もありませう、どうしても辛棒が出來なければ實家の事周圍の事などは考へないで一人で飛び出して了つて暫らくは東京でもどこでも女中でも何でもしてゐて機會を得て又寫眞屋なり他の商業をするなり、結婚をするなり全くの新生涯に入れば、その人の實力如何で如何によい運命を開拓されぬとも限りません、但し急がずにゐれば、自然にさうされる時が來るかも知れません、辛棒しぬいた上で自然に時機が來てからですと、周圍の同情も集まつて事が仕易いですが少しの事で、自分では可成辛棒したつもりでも他人は中々まだ〳〵さう見ないで我儘からだと云ふものですその邊もよく御考へになつてとにかく不安でゐると云ふ事は誰れにも如何なる場合にも悪い事です、心を定めてさへかゝればそれほどつらくはないものです、そのまゝでゐらつしやるなら一日も早く覺悟を定めておかゝりになるとよろしい。

M様より

前略私事突然不躾をも顧みず只今日まで御誌愛讀者として此度一身上に關し是非先生の御意見に預りたしと存じ厚顔ましく筆とり申候段何卒御恕し下され度御願申上候扨て委しくは紙上の事故申上兼ね候へば御寸暇にても御面會賜りたく候へども御都合の程如何にて御座候や御伺ひ申上候若し幸にして御面會の榮を賜らばお忙しき處誠に恐れ入り候へども時日の程一寸おしらせ賜り度御願申上候目下非常に迷ひ居り候て今後の方針定め兼ね居り候爲め先生の御意見に基きて相決め申さんと存じ此度厚顔しく御願申上候次第にて候

M様の御相談は生後半ヶ年の赤ちやんをつれて家風に合はないから、離縁されやうとするのですがどうしたらよいかと云ふのでした。實父が亡くしてものゝ十日もたゝないのに舅によつて云ひ出され、良人と云ふ人も父があゝ云ふから止むを得ないと云はれるのだ相です、良人の心さへどうしても引とめおかうと云ふのなら舅姑が何と云はれやうと、又施す術もあるのですされど肝心の良人の心迄さうであつて見れば仕方がありません、まだ二十歳かそこらの身空で一生そのまゝでは行きますまい、一層別れたがよいでしやう、と云ひますと、既に別れる事にはほゞ内定してゐますが、孫の顔を見るのもいやだと云はれる祖父の家に可愛いこの兒をおいて行くわけに參りませんからつれて出るのですが、養育費は如何程貰へばよいものでしやうか、小學校に行くやうになれば教育費は無論出すと云つてゐますと云ふお話でした、養育費の高は其人の身分によつて異ひましやうが、少なくとも最低十圓乃至二十圓程度は要するでしやう。

住山ふく子様より

扨先般は女中につきいろ〳〵御配慮相煩し申候處幸先々月よりまづよろしき女中出來申先月よりは女中の姉も參り申姉妹にてまめ〳〵しく働き居申好都合に御座候間何卒御安心下され度早速御禮かた〳〵御伺ひも致すべきの處何かと取まぎれ甚だ延引いたし御宅樣にては御手ぞろひ遊ばされ候や毎々雜誌御おくり下され有がたく御禮申上候又此ほどは青葉の舍御經營のよし誠に時機に適したる結構なる御計畫と存じ上げ候これにて如何ばかりか便宜を得候婦人も多かるべく從つて社會に貢獻する處も多大の御事と存じ上候何卒益々御發展御成功のほど祈上候三月號雜誌に御揭載

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の木村式精神療法と申すは實際脱肛とか脱腸とかに効驗これあり候やもし木村氏住所御存じにも候はば甚だ御手數さまながら御知らせ頂き度願上候先は暑中御見舞やら御禮やらかれて申上候かしこ

日向きむ子様より

拜啓炎暑の砌御變りなく被爲在候哉御伺申上候さて夫輝武永眠の節は御鄭重なる御吊問を辱ふし難有御禮申上候實は心計りの御返禮可申上の處各位の御厚情を紀念する爲め其費用を群馬縣前橋市上毛孤兒院に寄附することゝ致し候間不惡御思召被下度此段拜告仕候頓首
大正七年八月十日

編輯の後

△七月下旬に少し健康を損じましたので、暑中は保養するつもりで、八月一杯は靜養しましたその爲め今月號は少々頁數も減じましたが、十月號からは大に勉强してよし頁數はさまで多く出來ないまでも內容に於ては實用向と理想向との新知識をつとめて御紹介致します。昨今は既に秋風がたつて朝夕はよほどしのぎよくなりました。いよ〳〵讀書の好時機となりますから皆樣にもどうか相變らず御愛讀下さいまして、御一人でも多く御友達にも御すゝめ下さいますやうに御願ひ致します。

其の內に今少しは安くなるだらうと只管またれました紙價も印刷費もます〳〵騰るばかりで全く出版業者は何れも閉口して居ります同業者に取りましては大問題になりました、米價問題などはそれに比べては何でもありません皆樣には直接御關係が御ありになりませんから何とも思召さないかも知れませんが、その爲めとでも申しましやうか、當節は有益な然かもあまり一般に向きませんやうな高尙な書物の出版されるのが少なくなりまして眞に寂寞に堪えません、それについて私は小供の讀物でも十年前頃から出版されたもので非常にいゝ歷史ものなどが只今ではとても引合はないのでやり出さない樣ないゝのがあります。私は每日散步に出て有益だと思ふ樣なものをポツ〳〵買つて居ります。皆樣の御家でも、お子樣に讀ませたいと御希望なさる方には御ゆづりして上げてもよいと思つて居ります。

其他　下段の透明萬年筆でも、オキシパサーでも何によらず本誌掲載の廣告品は御便宜に御取次致します。

○純ガラスペン付
透明萬年筆　定價五拾錢
和洋紙を論ぜず歐漢和文字を自由自在に書記し得るは勿論にて和洋記帳諸筆記、細字、圖引等に極めて便利にして從來のペン(烏口)など遠く及ばず
東京市淺草區駒形町四十三番地
合資會社 共盛社
電話下谷六千十九番
振替口座東京七二四三番

岡埜榮泉
旅行は上野のステーションから
お菓子は岡埜の榮泉から
お土産にも
御茶菓子にも
電話下谷一九五二番
下谷區(岡埜)上野驛前

家庭必備劑

臺灣總督府專賣局方劑

藥學博士下山順一郎先生發明

後デシン
藤デシン液

◎本劑は防臭殺蟲殺菌劑として廿年來本邦に廣く認められて居ります。

◎最も恐るべきコレラ菌、ペスト菌も本劑を撒布せば、僅か五分間で死にます。

◎されば諸官省、病院、工場、家庭等に於て、便所其他不潔の場所に常に本劑をお用ひになれば、流行病を恐るゝの必要がありません。

發賣元

東京市神田區仲町一丁目三番地

株式會社 第百商店

電話下谷八三六番・振替口座三〇四五八番

全國最寄各藥店にあり

西川光二郎主筆

自働道話

平易簡明に、實践道德、新道德を說く雜誌にして、九月號の要目下の如し

受國心の訓練（西川光二郎）世の中（新渡戶博士）世界戰爭より日本は何にを學ばざるべからざるか（棟居喜九馬）

▲菊版二十六頁
▲一部郵税共六錢五厘
▲一年同七拾錢
▲毎月一日發行

新眞婦人合本（自一號至十二號）定價郵税共一圓
合本第二卷（自十三號至二十四號）同
合本第三卷（自二十五號至三十六號）同
合本第四卷（自卅七號至四十八號）同

新眞婦人社

職業教育が受けたい方は

若し若い婦人で、兩親から學資は出して貰へないが、體丈けは二三年許して頂けるから何か職業教育を授かりたいと云ふ方が御座いましたら御相談下さい、本社の賛助員の方で教育して下さる方が御座いますから。

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け
(1) 職業を求むる御婦人
(2) 職業の撰擇に迷ふ御婦人
(3) 家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4) 結婚の事
等の御相談に應じます。

▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後四時頃御出で下さい。

なほ右の件につき手紙で御相談下されば、直接又は誌上にて御答へすることにいたします。

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊（郵税共）	拾參錢
半年分（郵税共前金）	七拾五錢
一年分（郵税共前金）	壹圓四拾錢

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正七年八月二十八日印刷納本
大正七年九月一日發行

本郷區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込動坂町三二七
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京（二四五五六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第六十五號
大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正七年八月二十八日印刷納本
大正七年九月一日發行（毎月一回一日發行）
定價金拾參錢